○救災義金募集

本月十五日の夜、宮城、岩手、青森の三縣下を荒したる大海嘯は近來稀有の慘狀を極め海岸數十里を一掃して家屋の流失、人畜の死傷其數算なし而して災變、急遽の間に起り人々難を避くるの遑無く父母を失ふの孤兒、骨肉に離れたる負傷者は依據する所なくして暴屍累々途方に彷徨せん其慘狀實に江湖慈善家の傍觀するに忍びざる所なり依て本社は左の規定に從ひ義金を募りて救難の資に供するの勢に當るべし世の慈心あり餘資ある人士多少の義金を投じて窮民の窮苦を救恤せられんことを願ふ

一、義捐金は一口金一圓以上とす
但し數人申合せて一圓以上となし其内の一人を總代として申込むるは勝手たるべし
一、本社に達したる義金は時事新報に記載し之を以て受領の證とす
一、義捐者は其姓名住所を詳記し義金と共に本社に通知あれ又横濱にては住吉町四丁目の時事新報寶捌店日の出屋鈴木清之輔方に申込まるれば本社に達すべし
但し姓名の附記を要するも紙上に明記する事を厭はる〜向は其通知に從ひ匿名にて紙上に掲ぐべし
一、義金は宮城、岩手、青森の三縣廳に托して救助の處分を爲すべし
一、郵便爲替を以ての送金は東京芝口郵便局渡しのものなるを要す
一、義金募集の期は來月十五日を限りとす
一、内國通運會社にては今度東京市内義捐者の便利を計り我社（送る義捐金）は總て同社貨幣早速便を以て無手數料にて取扱ふ事を爲したれば市中遠隔の地に住し其義捐金を時事新報へ送附するに不便を感ずる方々は「時事新報宛義捐金」として最寄の内國通運會社支店又は代理店に申込ひべし

明治二十九年六月　時事新報社

朝鮮の前途

社說

凡そ天然の約束は素樸なる處に異數の物の生ずるを許さず例へば松林に竹を生ぜず竹林に松柏の繁茂せざるが如く歐羅巴にして初めてユートンを出したれども阿弗利加には之を生ぜざるが如し左れば或社會に一傑物を出したるときは則ち其社會全躰の風潮自から傑物を出す可き素質あるを示すものにして社會の風潮に反したる異種無類のもの〜逃出は遠近上有り得べからざるの事なりと謂ふ可し然るに仁義道德地を拂ふて人心腐敗の極に達したるが如く世間より想像せられたる彼の朝鮮國に於金五均の久しく他國に流離して辛酸の途を嘗えたる其數奇に仕へて數多の辛酸を事ともせず十年一日の如く新水の勢を執りたる忠僕を生じ又金氏と同時に難を米國に避けたる徐光範の妻女を生ぜしめが爲め自らの貞操をも忍んで衣食を給し嘗て忠節を盡らさりし婦人を生じたるは一見奇なるが如くなれども朝鮮國の二傑士たるを取り收拾し國運を挽回する英風の發揚を示したるものにして一般の國心は決して世人の想像せざる如く腐敗し居らざるの確證なれ嘗て同國政府に聘せられて財政整理の局に當りたる或經濟家の談に據るに同國の人民は率直無私、納稅の義務を盡すみと至て正實にして期日を違へず成規を踏み敢て或は怠るものなきの有樣なれども獨り其間に立ちて不正を働くものは人民の上に位したる官吏にして所謂士太夫の流なりと云ふ彼此の事實を思合はすれば朝鮮國の下層社會には數百年來嘗て濁らざる美風清潮の源流混々として盡きざるものあり一般の百姓は則ち德義の民たるに反して不德不義、驕貪詐僞、褒忍酷薄、あらゆる害惡腐敗の根本は人民以上の士流に在て存するを知るに足る可し即ち國弊の所在は下、人民にあらずして上、士太夫にあるが故に其弊のある所に隨て之が救濟の法を講ぜば朝鮮の立國未だ俄に絶望するに及ばず否な、今日國勢の萎微不振は是等士流の害惡無道に壓倒せられて國民固有の美德を發揚する能はざるの致す所なれば漸次士流の徒を淘汰改善して所謂腐敗の根本を滅絶するときは本來立國の基礎として立派なる人民を有する我隣邦の前途は左ながら妖霧を拂ふて朝暾の出現するが如くなる可しと我輩は遙に其前途の好望を信じて尚は落膽せざるものなり

日々新聞

論の論はます〜鮮の末に趨りてます〜論の本旨に違かりながら獨り自から嘆々して往々取留めなき言語の多きは少しく怪しむ可きに似たれども我輩は尚ほ幾分の見込あるものと認め聊か取合ひ居たりしに一昨日に至りてはいよ〜不穩の相を呈し自から喪神云々の字を掲げ時事新報が前日來明言して彼の記者の耳にも慥に聞取り得たる可しと思はる〜今の國力の有樣を以て讒入の增加は敢て難事に非ざれば更らに稅源を求めて奬勵の目的を達す可しとの說に對して突然左の如く放言せり

憲法政治の今日に當り當路者豫算の足らざるを見て直に租稅を徵收し支出の目的を達するが如きことを許さず租稅を課するは法律を以てせざるべからず歲出を爲すは豫算に由らざるべからざるは帝國憲法の明文に赫々たり帝國の國力今日に百倍するに至るも此の如き專横を爲すを許さず時事子の如きは當路者の憲法を紛更するを慫慂するものなり

歲入增加が憲法紛更とは日々記者も日々にます〜切迫して餘程、變になりたるものゝ如し恰も他の奔るを追て共に奔るは世間に對して氣恥かしき限りのみか讒者の迷惑の上もなき次第にみをわれば斯る本人を相手に本氣の議論は最早や止めにす可し

○紋任辭令

任議官試驗場技師（敍高等官七等）　非常勤科大學助教授　森　恪太郎
任船舶檢査官（敍高等官七等）　船舶司檢所司檢官　小嶋　門蔵
任官山縣管區學校長（以上七月四日）　池田日升三

○高等商業學校卒業式

は昨日午前九時より同校講堂に於て擧行されたり當日は榎本農商務大臣、西園寺文部大臣代理牧野文部次官、渡邊同參事官、波多野陸軍大佐、秋月女子高等師範學校長、強者高等商業學校長、新聞記者、來賓一百餘名の來場あり先づ小山校長は卒業生一百四十五名に對し卒業證書を授與し了つて一場の訓辭を演べ生徒總代森川鉄太郎氏の答辭あり次に榎本農商務大臣の祝辭あり次に榎本大臣は其物を見付出されて手前を始め悉皆者が攻込だから、彼奴が

臣代理牧野次官幷に榎本大臣の祝辭、英國特命全權公使サトウ氏幷に澁澤榮一氏の演說あり式畢つて別室に於て立食を饗し午前十一時頃散會したりと云ふ

○函館新聞の區長攻擊

北海道函館に於て築港に連關せる若松町埋立工事に付區會を開くや函館新聞は頻りに同區長財部堯氏が數名の議員と結托して區民の公益を蹂躙せりと論難し殊に去月三十日の紙上には「與原長官書」と題する一篇の社說を掲げて大に攻擊する所ありしが終に官吏侮辱の告發を受けて署名人兩名は翌一日拘引せられしも一應取調べの上歸宅を許されたるよし

○三陸地方の慘景（其二十）

宮城縣細浦の遠景　畫報員　都島英喜

夜嵐車の犯罪

第六十三回　犯の動機なるぞ　抑月庵さしら　譯述

彼物を失して地るものか、ナーント愛に、納めて在る

[illegible]吉は、シャツの裏なる衣嚢より、彼の血塗れの手巾、引出して机の上に置げたり

兄貴、れ前が番場[illegible]
兄貴、左樣爲めらは
に一れ前に、聞き
一は愚か、幾何で
じゃ聞くが子、彼の
驚したのは、野生の
かチ
左樣よ、彼の時、此
成程、左樣云ふと
野生を疑ぐる譯が
そりやあったかも知
野生も左樣想たの
に、版行の捺せて
と、彼の小指の疣の
を向けて、驚て之を
符切を合すが如し、
春、勘恐して呉んな
此疣の持主は全く
ね、其處で此身
疣の死骸を覗ると
形、中に判然疣の
を實は、汽車犯罪
ヤれ前がと、腑に
イヤ其疑ひは尤も
彼の曲者とは寸分
の探偵に掛てる探
不思議な位、
何故不思議だ
何故たって、曲者
見したのは、貴兄
訪者も氣が付て、
覺えて居なさらね
此角や、彼時から、
クに讓まねへんだ
左樣か、だが此身
讓だゼ
左樣か
其處で曲者は、有
小指の二の關接に
ると云ふと、
或花疣をば創り取
た樣子、
此時尚は眠床の内に
けるにゼ、二人は
れ前、如何したん
春吉は、一番長樣の、
り擧覺ふの好男子、
れるものに似たり、
顏色蒼然として
私や、其疣を、創
[illegible]代吉は、目茶
もそりゃ何テ云
左れども少女は、